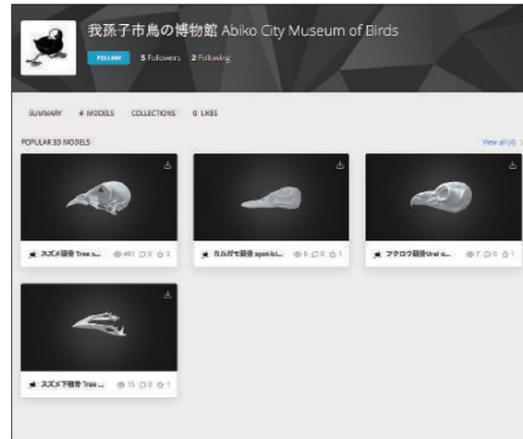


標本3Dデータの公開を始めました!

近年、美術館や博物館における資料のデジタル化が進んでいます。自然史系の博物館では、生物標本をCTスキャンして3Dデータ化する試みが注目されています。3Dデータにすることによって、オンラインで気軽に標本の外部形態を立体的に観察したり、研究に利用することができるようになります。

鳥の博物館では、Sketchfabという3D・VR・ARコンテンツを公開、共有できるコミュニティサイトで、博物館で収蔵している標本の3Dデータの公開を始めました。現在、スズメ・フクロウ・カルガモの頭骨の3Dデータを掲載しています。サイトにアクセスすると、どなたでも自由にご覧いただけます。今後も公開データを増やしていく予定です。お楽しみに!



Sketchfabの鳥の博物館のサイト

<https://sketchfab.com/torihaku> (外部サイト)

右のQRコードを読み込むと、鳥の博物館のサイトが閲覧できます→



公開しているフクロウの頭骨。画面を操作すると様々な角度から標本の形態を見ることができます。

利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- 休館日 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、館内整理日、年末年始 (12/29～1/4)

	区分	個人	団体
入館料 (当日有効)	一般	300円	240円
	高校生・大学生	200円	160円
3館共通入館料 (1か月有効)*	一般	500円	
	高校生・大学生	400円	

・入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳等をお持ちの方 (介助者1名含む)

入館料免除の対象の方は、証明できるものをご提示ください

・中学生以下の方は入館無料

*白樺文学館、杉村楚人冠記念館との共通券

●お問い合わせ：我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3

☎: 04-7185-2212 FAX: 04-7185-0639



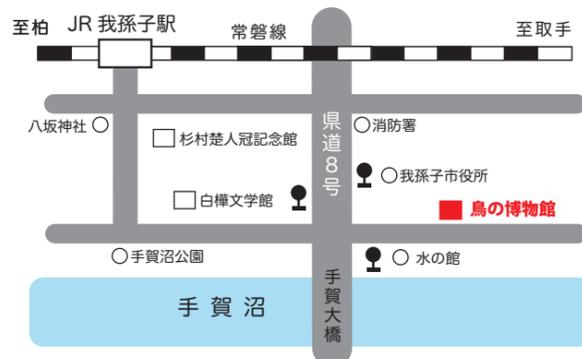
交通案内

JR 我孫子駅南口バス停より市役所経由

バスで「市役所」下車、徒歩5分

天王台駅北口バス停より、アイバスで「水の館前」下車

自動車利用の方は地図をご覧ください (駐車場無料/大型バス駐車可)



あびこ鳥だより

2022
No.1

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.62



特集「キジバトの給餌の観察」

新着情報「標本3Dデータの公開を始めました！」

表紙の鳥 ヨタカ

「キジバトの給餌の観察」

5月の下旬に我孫子市の市街地で、キジバトが2羽、並んでとまっているのを見つけました。この2羽は親子で、右側の幼鳥がくちばしの先を、左側にいる親鳥の口の中に差し込んでいました(写真1)。キジバトの幼鳥は、羽毛の色や模様が成鳥とは少し異なっています(写真2)。

キジバトの親鳥は、ヒナに直接餌を与えるのではなく、食道から分泌される栄養物質を子どもに飲ませます。分泌物は「ピジョンミルク」と呼ばれますが、哺乳類のように乳房の乳腺から分泌されるものではなく、食道の一部である「そ嚢」の上皮組織がはがれ落ちたものです(ギル2009)。今回観察したキジバトの幼鳥は、親の口の奥(食道)に餌があるので、それを吸うためにくちばしを親鳥の口の中に入れていたのです。キジバトは一夫一妻の社会を持ち、巣にはふつう2卵を産み、両親ともに抱卵とヒナの世話をします(中村・中村1995)。雄も雌と同様にピジョンミルクをヒナに与えます。

キジバトは日本国内には北海道から沖縄県までほぼ全国に分布しますが、北日本では冬になるとより暖かい地域に移動します。そのほかの広い地域では、ほぼ一年中繁殖することが知られています。しばしば、冬にも巣立ちヒナが見つかることがあるのはそのためです。ハト類はピジョンミルクを用いて雛を育てるため、一般の鳥のように、ヒナが飲み込める餌の大きさや、ヒナの育成に適した餌の得られる時期にしばられて繁殖する必要もありません。そのため、営巣がある決まった時期に限定されず、年に何度も営巣することが可能になったと推測されています(和田1991)。

キジバトのように食道から分泌される液(そ嚢乳)をヒナに与える鳥は、ハト類の他にはフラミンゴ類、コウテイペンギンが知られていますが、ごく一部の鳥に限られています(ギル2009)。餌をくちばしで運んできて直接与える鳥の給餌は写真3のように、幼鳥が大きく口を開き、その中に親鳥が餌をくわえたくちばしを直接差し込むという方法です。それに対し、餌やそ嚢乳を吐き戻してヒナに与える鳥では、口を開ける側とくちばしを差し込む側とが(親子で)逆になっています。写真1のキジバトの幼鳥でも、ピジョンミルクを飲むために、幼鳥が親鳥の口の中にくちばしを差し込んでいることが分かります。

キジバトは普通に見られる鳥ですが、足を止めてよく観察してみると、街の中でもその独特な給餌を見られる時があります。キジバトは比較的近くで観察することができます。そして、実際に給餌の瞬間を目撃できた時には、不思議とうれしくなるものです。読者の皆様も、キジバトの家族を見かけた時には是非、その給餌行動にも注目してみてください。



写真1.キジバトの親子。幼鳥(右)が成鳥(左)の口の中にくちばしを差し込んで給餌を受ける様子。



写真2.キジバトの幼鳥。虹彩の色が暗い点や首元の縞模様のない点が成鳥とは異なる。



写真3.イソヒヨドリの給餌。幼鳥(左)が大きな口を開け、成鳥(右)が餌とともにくちばしを差し込む様子。

引用文献

- フランク・B, ギル. 2009. 鳥類学. 新樹社, 東京.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編). 保育社, 大阪.
- 和田岳. 1991. ピジョンミルクが繁殖期を広げる. 動物たちの地球 6: 260-263. 朝日新聞社, 東京.

科名	種名	個体数(羽)						
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	総計
カモ科	マガン	1						1
	オカヨシガモ	5	21		17			43
	ヨシガモ	3		2	1			6
	ヒドリガモ	166	173	524	69			932
	ヒドリガモ×アメリカヒドリ		1	2				3
	マガモ	1196	815	1374	128			3513
	カルガモ	385	520	832	180	29	14	1960
	オナガガモ	64	376	214	2			656
	トモエガモ	51	2					53
	コガモ	1069	436	615	355	91	3	2569
	ホシハジロ	21	51	11	3			86
	スズガモ					1		1
	ミコアイサ	1	14	3				18
カイツブリ科	カイツブリ	44	34	18	42	34	17	189
	カンムリカイツブリ	87	13	23	26	3		152
	ハジロカイツブリ	9	2	1	1			13
ウ科	カワウ	52	74	40	93	74	50	383
サギ科	ゴイサギ	16						16
	アカガシラサギ		1					1
	アオサギ	6	32	7	25	8	3	81
	ダイサギ	5	7	5	7	4	5	33
	コサギ	19	11	5	9	4		48
クイナ科	クイナ	2	3	1	3			9
	ヒクイナ	3	2		1	1		7
	バン	4	4	5	2	3	2	20
	オオバン	134	122	93	124	48	8	529
チドリ科	コチドリ					1		1
シギ科	イソシギ	1						1
カモメ科	ユリカモメ	14	2					16
	セグロカモメ	4	2	4	3	1		14
	ニシセグロカモメ	1	1	1	1			4
	コアジサシ						7	7
	アジサシ						3	3
	クロハラアジサシ						2	2
ミサゴ科	ミサゴ	3	2	2	1			8
タカ科	トビ		2		4			6
	チュウヒ		1					1
	ハイタカ	1						1
	オオタカ		1					1
	ノスリ	1						1
カワセミ科	カワセミ		8	2	4			14
カラス科	ハシボソガラス		3		2	1	3	9
ツバメ科	ツバメ					1	1	2
セキレイ科	セグロセキレイ		1	2				3
14科	44種	3367	2737	3786	1103	304	118	11415

外来種	コブハクチョウ	11	18	26	36	24	21	136
-----	---------	----	----	----	----	----	----	-----



ミコアイサ雄成鳥と雄幼鳥(1月)



オオバンとバン(2月)



ニシセグロカモメ(3月)



婚姻色が出たコサギ(4月)



オオヨシキリ(5月)

写真は調査区外で撮られたものもあります
 調査日: 2021年12月10日、2022年1月19日、
 2月17日、3月9日、4月19日、5月17日
 (9:00~12:00)